

OECM を通じた 企業の生物多様性保全活動

2023年1月25日(水) 13:30～16:30

オンライン開催

参加
無料

2022年12月に開催された生物多様性条約の締約国会議において、「2030年までに陸と海の30%以上を保全する」という世界目標（30 by 30 目標）が決定されました。

この30 by 30 目標の達成に向けた重要な手段が OECM（オーイーシーエム）です。

OECM とは、法律などにより保護地域に指定されていない場所で、企業や NGO 等の取組により生物多様性保全に貢献している場所（企業緑地、里地里山、都市緑地など）を指します。

環境省では、OECM の推進に向けて、企業等の取組により生物多様性の保全が図られている場所を認定する仕組み（自然共生サイト（仮称））の構築を進めています。

このフォーラムでは、今後、中部地域で OECM を増やしていく方策を検討するため、OECM に取り組む意義やメリットなどについて深掘します。

プログラムは裏面をご覧ください

申込方法

- 参加申込フォーム <https://forms.gle/W5W5YCL7jJ7MZuB46>
開催日の前日、申込登録したメールへ ZOOM の参加 URL をお送りします。
- メールで申込の場合 宛先：info@epo-chubu.jp
①氏名（ふりがな）、②連絡先（メールアドレスか電話番号）、③ご所属先を記載のうえ、件名「0125 フォーラム」で1月20日までに送信願います。
- 定員 100 名



30 by 30 及び OECM にご関心のある方は、どなたでもお気軽にご参加いただけます。
特に、生物多様性保全の取組を展開している、またはご関心のある企業、活動団体、自治体のみなさまのご参加をお待ちしております。

参考

環境省ウェブサイト「生物多様性のための 30by30 アライアンス」
<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance>



プログラム

1. 開 会

ご挨拶：環境省中部地方環境事務所

2. 企業による生物多様性保全

- ① 「OECM と自然共生サイト（仮称）について」
環境省自然環境局自然環境計画課
- ② 「世界目標と企業の生物多様性保全」
渡辺 綱男 氏（国連大学サステイナビリティ高等研究所シニアプログラムコーディネーター）

3. 自然共生サイト（仮称）試行認定の経験共有

- ① 「森の維持管理と自然共生サイトへの取組」
谷岡 修 氏（ソニーグローバルマニュファクチャリング & オペレーションズ株式会社人事総務部門
総務・ファシリティ部）
- ② 「希少生物が生息・生育するシャトー・メルシャンの^{まりこ} 梔子ヴィンヤード（長野県上田市）」
小此木 陽子 氏（麒麟ホールディングス株式会社 CSV 戦略部）
- ③ 「^{ははそ} 柞の森（石川県珠洲市）における茶道用木炭生産を通じた里山の保全」
大野 長一郎 氏（株式会社ノトハハソ代表取締役）

4. OECM に向けた多様な主体の連携

- ① 「自然共生を目指した企業連携」
北本 都美 氏（環境パートナーシップ・CLUB（EPOC）自然共生分科会事務局
東邦ガス株式会社 CSR 環境部部長付）
- ② 「市民・専門家と連携した調査・保全活動」
長谷川 泰洋 氏（なごや生物多様性保全活動協議会会長）

5. 質疑応答と登壇者によるトークセッション

6. 閉 会